加古川シネマクラブニュース Vol.85　2015.06.30

7月例会「ソ満国境 15歳の夏」

会員募集中！

加古川シネマクラブの会員は、現在138人と最盛期の6割にも及びません、大袈裟に言えば、存続の危機を迎えています。お近くに、映画が好きな人がいれば、是非、この会の存在をお知らせいただき、できれば入会いただきますようご案内願います。この会の存在が、地域の映画文化を支えるひとつの証と言えるよう優れた作品を厳選した例会や、その他の活動を続けていきたいと考えています。

先日、映画制作関係者とお話をする機会もあったのですが、「最近は良い映画がつくりにくくなっている。子ども向けのものが主流で、以前は、興行成績とは別に、それなりに良い作品は評価され、制作の機会もあったが、業界に余裕が無くなってきているようだ。観覧者を含む映画文化にかかわる人がそれぞれに良い作品を評価する必要がある。」という内容のことをおっしゃっていました。

映画は、作る側と観る側があり、良い作品に対しては、観る側が作る側に、作品の評価を積極的に伝えることの大切さを再認識しました。各地の映画鑑賞団体の作品選定は、評価のひとつでもあると思います。

加古川シネマクラブは、加古川地域の映画団体として、映画文化に少しだけでも貢献できるのではないかと活動を続けていきたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

例会のお知らせ

■名称／第85回例会『ソ満国境 15歳の夏』

■日時／7月21(木) ①PM 2:00ー、②PM 4:20ー、③ PM 6:40ー

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／ソ満国境 15歳の夏

■監督／松島哲也

■原作／田原和夫

■出演／柴田龍一郎、六車勇登、三村和敬、金澤美穂、金子昇、夏八木勲

■データ／2015年、日本、94分、ドラマ／戦争

■解説／田原和夫の同名体験記を基に、第二次大戦の敗戦直前にソ連と満州の国境近くに送られ、敗戦とともにそのまま置き去りにされた中学生たちの過酷な逃避行を描いた戦争ドラマ。

俳優の夏八木勲の遺作にもなった作品で、田中泯といった名優が脇を固め、柴田龍一郎、六車勇登ら注目の若手俳優が柱を演じる。

■物語／「すべては一通の招待状から始まった」未曾有の打撃を受けた東日本大震災から1年後の福島。15歳の敬介は仮設住宅への非難を余儀なくされていた。中学最後の夏。放送部の作品づくりができないことを残念に思う敬介と部員たちだったが、突然の招待状が舞い込んでくる。見知らぬ中国北東部の小さな村から、ぜひ取材をしてほしいというのだ。

期待と不安を胸に果てしない平原が広がる中国へと旅立つ敬介たち。招待主は村の長老・金成義（ジンツンイ）。彼の口から語られたのは、67 年前、15 歳だった少年たちの壮絶な体験だった…。

昭和 20 年 8 月、爆撃が降り注ぐソ連と満州の国境付近に取り残された少年たちの、決死の逃走劇を描く。

チャン・イーモウの作品について

昨年の 12 月に明石シネマクラブの例会で中国映画の巨匠**チャン･イーモウ監督**の**『妻への家路』**を観て大きな衝撃があった。それなりの原作、脚本、映像、俳優などを、優れた監督が指揮すると、これほどまでに名作になるのかと。わかりやすい映画が好きな私にも、この地味な作品のよさはよくわかる。これを契機に、あらためてチャン･イーモウ監督の、近現代の中国を舞台としたヒューマンストーリーの作品を見直したりしている。それぞれの作品が、少しずつ影響しているようで実におもしろい。上映当時に作品単体で観た時には、わからなかったオモシロみだ。

例えば、女の子に対しては、スタジオジブリの宮崎駿監督と同系列の美意識というか憧れを持っているようであることなどだ。

詳しくは、また、記す機会があるだろう。例会でのチャン･イーモウ作品を期待する。(ハインリッヒ)

前回例会の報告

6 月 2 日の例会は、1984 年のイギリスの炭鉱閉鎖に対するレズビアンとゲイからの寄付活動にかかわる出来事を描いたコメディ映画**『パレードへようこそ』**を鑑賞しました。よくできた作品で参加者からも「30 年前のイギリスで弱者が手をつないでいたことはすばらしい」「名優は演技がすばらしい」「少し長かった」などの感想がありました。

先日のイギリスの EU 離脱の国民投票の予想外の結果を見ると、この映画で表現されているように、労働者やマイノリティ(少数派)の人たちの政府に対する不満や反発の力が、理性を越えて噴き出したのかとも思いました。

参加会員 95 人、明石シネマクラブから 4 人参加。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『サンドラの週末』

(2014 年、ベルギー・フランス・イタリア合作　95 分)

■日時／8 月 17 日(水)

①PM2:00－、②PM4:30－、③PM7:00－

■場所／アスピア明石９階子午線ホール

(ＪＲ明石駅東徒歩５分)

■解説／パルムドールを受賞した**「ロゼッタ」「ある子供」**など、カンヌ国際映画祭の常連として知られるベルギーのジャン=ピエール＆リュック･ダルデンヌ兄弟が、オスカー女優のマリオン･コティヤールを主演に迎えた一作。体調不良で休職していたサンドラは、ようやく復職の目途が立つ。そんな矢先のある金曜日、会社が職員へのボーナス支給のために 1 人解雇しなくてはならず、サンドラを解雇すると通告してくる。同僚のとりなしで、週明けの月曜日に職員たちによる投票を行い、ボーナスをあきらめてサンドラを再び迎えることに賛成する者が多ければ、そのまま復職できることになる。それを知ったサンドラは週末、同僚たちを説得してまわるが･･･。

■監督／ジャン=ピエール･ダルデンヌ、リュック・ダルデンヌ

■出演／マリオン･コティヤール、ファブリツィオ･ロンジョーネ

■受付／会場受付で、①加古川の会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■目的／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ　〒675-0101
加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方
TEL 090-9283-0435　FAX 078-935-8528
E-MAIL cinemaclub@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/cinemaclub

会員数 138 人(6 月 2 日現在)